

新年ご挨拶

天満別院 責任役員

谷 康司



皆様、新年を迎えられおめでとうございます。現在も、引き続き天満別院にて責任役員を務めさせていただきます。当初と異なり現在は、奥林曉様、八十島義郎様と谷で大役を仰せつかっております。前責任役員を務められ、功績者であられた榊屋義雄様が御浄土に還られ、後に残された私どもは、先君の教えに従い財政基盤の安定を図るべく検討を続けて参りました。その方向性については、概ね手続きに入ろうと最終段階にあると思っております。この先30年間に於いての長期計画でありますので、覚書文言そのものに時間を費やしており、皆様にご報告するには至っておりません。私自身が昨年に古希を迎え

ました。本契約が終了するであろう30年先は未知数であり、責任の重さに慎重になりスピード感が無い状態である事は申し訳ないと思っております。

今は、『蓮如上人御一代記聞書』に残されています「念仏もうさるべし」のご勸化のおことばは、自力の念仏ではなく、「弥陀をたのむ一念」から学び私達門徒が阿弥陀様の御心を知り報恩の心で念仏を称える別院として存続しつつ、新たな1年を日々歩んでいけたらと願います。

天満別院 門徒会 会長

八十島 義郎



新年明けましておめでとうございます。旧年中は門徒会活動にいろいろとご尽力賜り厚く御礼申し上げます。3年続きのコロナ禍で世界全体が疲弊しておりますが、第5回

目のワクチン注射への協力でコロナ感染も第7波もやや落ち着いてきたようで世界中の方々はテレビで見える限りマスクをつけていない姿が目に入ってきています。しかしながらすでに第8波がやって来ます。油断大敵です。お互い健康管理に注意致しましょう。明るいニュースではW杯日本がベスト16に進出して国民に勇気と希望を与えたことでしょうか。

天満別院で昨年の文化講演会として2年越しに約束していた、桂坊枝師匠をお招きして独演会を行いました。題目が「四天王寺詣り」でその熱演に久しぶりに腹を抱えて笑いました。このような催しを今後も続けて門徒の方々に参加していただければと思っています。また本山報恩講団体参拝も、沢山の出仕者の声明等で如来、浄土莊嚴の素晴らしい法要に巡り合えました。

今年は親鸞聖人御誕生八五〇年慶讃法要が勤まります。奮ってご参加致しましょう。今年一年心新たに穏やかな年になりますようお願いしております。

謹賀新年

◆責任役員

奥林 曉
八十島 義郎
谷 康司

◆院議会議員

○ 鶴 鶴 律
○ 越 浦 龍成
村上 奈津子
長江 弘樹
辻岡 恵
宇野 善昭
八十島 義郎
幸田 晴夫
傍島 恭子
小糸 正洋

監 事

洲崎 善範
下川 勝造

◆門徒会

顧問 宇野 善昭
会長 八十島 義郎
副会長 幸田 晴夫
副会長 傍島 恭子

◆月忌とは？

月忌は、亡き人の御命日にあたる日を毎月、お内仏さまの前で手が合わされる仏事をいいます。最近、共働きが当たり前の生活様式になりつつありますが、私を生み、粉骨砕身のおもいで育ててくれた亡き父・母の御命日を大切にすることは人としての温もりを回復することに繋がります。毎月の御命日を大事にしてほしいと思います。

◆申経について

最近、月忌参りがなかなかできないということ、別院の晨朝（おあさじ）の折に亡き人の御命日にあわせて、「申経」をお願いする方が増えつつあります。別院といたしましても、本来ならばご家庭のお内仏に向いてお勤めをと思っておりますが、月忌参りできない方には「申経」をお受けしています。ご希望の方は別院寺務所までご連絡ください。

2023年度（令和5年度）の年回表

年 回	年回にあたる没年	年 回	年回にあたる没年
1 周忌	令和4年	(27 回忌)	平成9年
3 回忌	令和3年	33 回忌	平成3年
7 回忌	平成29年	(37 回忌)	昭和62年
13 回忌	平成23年	50 回忌	昭和49年
17 回忌	平成19年	(70 回忌)	昭和29年
(23 回忌)	平成13年	100 回忌	大正13年
25 回忌	平成11年		

※ 23、27、37、70回忌につきましては、地域によってはお勤めされない場合もございます。

※ 年忌法要をお勤めになる際は、少し早めにご連絡いただきますようお願い致します。ご相談等は寺務所までご連絡ください。

年忌法要・月忌参りについて

◆なぜ年忌法要が大切なの？

私たちは一人ひとりが数知れぬ先祖の命を絆として、今を生きています。亡き人を憶う心に我が命の深さをいただくことはとても大切なことであります。

真宗は、亡き人を供養するのでなく、どこどこまでも亡き人を諸仏さまといただき、日頃、生活に追われて日暮らしをしている自分に、赤信号がともり、年忌法要を縁として、今までの生き方、これからの生き方を阿弥陀仏のみ教えに耳を傾け、亡き人の姿を偲び、大切なことを見失っていた合掌の心を取り戻すところに大切な意味があります。

したがって、年忌法要は、生きている私になくてはならぬ仏事（法事）であります。コロナ社会にあっても、せめて家族、親族が集いて親密なる出遇いをなさってほしいと願うばかりです。